

高校生による
「特殊詐欺防止啓発活動」
に関する報告書

2021 年度 山梨県立山梨高等学校

目次

活動の趣旨・経緯	2
学校概要	3
実施スケジュール、実施概要	3
活動レポート	
* 5月	
1年「家庭基礎」特殊詐欺について理解を深める活動開始・標語募集	4
* 7月	
特殊詐欺防止啓発動画制作（演劇部）	5
* 8月	
ホームプロジェクトで特殊詐欺に関する調査実施	6
* 9月	
調査内容発表・共有	6
啓発グッズの制作と校内への掲示	7
* 10月	
街の駅やまなし（山梨市地域交流センター）に啓発グッズ設置	8
特殊詐欺防止啓発キャンペーン	9
特殊詐欺防止講座の実施	10
* 11月	
山梨県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会	11
特殊詐欺防止啓発キャンペーン	12
各活動の実績	
各媒体における紹介	13
啓発グッズの配布実績	13
1年間のまとめ	14

活動の趣旨・経緯

本取組みは、学校家庭クラブ等の枠組みを活用して、生徒自身が特殊詐欺の被害が身近なところで起きている問題であることと捉え、その防止策等について理解し、生徒自身が考えた「特殊詐欺防止啓発活動」を地元地域で実践することで、生徒による社会貢献活動、ひいては地域における「特殊詐欺防止啓発活動」の自立的な広がりを期待したものである。全銀協は本取組みに関して、支援金の拠出や、活動に当たっての各種アドバイスや資料提供などのサポートを行うこととしている。

本取組みは、①「消費者教育に関する基本的な方針」（2013年6月閣議決定、2018年3月変更）において、金融経済教育と連携した消費者教育を推進することが重要であることが示されたこと、②学校教育において、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習の重要性が高まっていること、③全銀協の金融経済教育活動懇談会（2015年2月開催）において、学校家庭クラブの活用、特殊詐欺防止をテーマとした生徒による教材制作について提言があったこと、などを踏まえ、2016年度より導入したものであり、以下のような効果を期待している。

- 対象層数の拡大…金融経済教育に取り組む学校・教員・生徒数の増加
- 教育現場との連携強化…教育委員会・家庭科教員との新たなパイプ作り
- アクティブラーニングの実践…高校生が主体的・協働的に学ぶ学習機会の提供
- 金融犯罪防止啓発活動の効果…高校生が考える防止啓発活動の実践
- 対外PR力の向上…高校生による活動報告公表による広告効果

6年目となる2021年度は、山梨県教育委員会下で実施校を募集し、山梨県立山梨高等学校に「特殊詐欺防止啓発活動」を委嘱した。

学校概要

■沿革

大正 6 年 4 月 東山梨郡立実科高等女学校として日下部村小原に設置

大正 13 年 4 月 山梨県立山梨高等女学校と改称

昭和 23 年 4 月 学制改革により山梨県立山梨高等学校と改称

平成 29 年 10 月 創立百周年記念式典および記念事業挙行

■校訓 至誠無息

「至誠息むことなし」

この言葉は『中庸』の中に見える言葉で、第3代校長、小畑善吉先生によって、昭和 11 年 4 月、校訓として制定されたものです。

「至誠」とは、このうえない誠実さ、真心を指します。そして、「息」は静かな息づかい（休んでいる状態）を意味します。したがって、「至誠無息」とは「常に誠実であることを目指して、怠り休むことなく、自分を磨きなさい。」という、人としての在るべき姿を示しています。

また、誠実に努めた先には、他者からの信頼があり、そこに生きることの尊さが生まれます。

この校訓を学習に、部活動、そしてあらゆる生活の中での心得として、常に目標や理想を高く掲げ、真摯に生きることを強く求めます。

実施スケジュール

5月	・1年「家庭基礎」特殊詐欺について理解を深める活動開始・標語募集
7月	・演劇部 特殊詐欺防止啓発動画制作（学校 YouTube にて限定公開）
8月	・（夏期休業） ホームプロジェクトで特殊詐欺に関する調査実施
9月	・ホームプロジェクト（夏期休業中課題）の発表・共有 ・啓発グッズ制作（のぼり旗、ポスター、ミニチラシなど）
10月	・「街の駅やまなし（山梨市地域交流センター）」にポスター・啓発グッズ設置 ・「特殊詐欺防止啓発キャンペーン（日下部警察署合同）」での啓発グッズ配布（山梨市、甲州市のスーパーマーケット前にて） ・日下部警察署による「特殊詐欺防止講座」実施
11月	・山梨県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会での活動発表 ・「特殊詐欺防止啓発キャンペーン（日下部警察署合同）」での啓発グッズ配布（「やまなしし朝の市」にて）
1月	・活動まとめ

実施概要

家庭クラブ委員会、1年「家庭基礎」、ホームプロジェクトでの活動を中心に、学校全体で協働して実施。

活動レポート

■ 5月 1年「家庭基礎」特殊詐欺について理解を深める活動開始・標語募集

1年「家庭基礎」で、特殊詐欺について理解を深めるための授業実施。

山梨県内では、特殊詐欺の被害が2021年5月末までに31件（前年比+6件）、被害額は約8,849万円（前年比+約3,676万円）にのぼり、被害件数、被害額ともに前年より増加していることが分かった。詐欺の手口も多様化、巧妙化しており、現金の受け渡しもATMへの振込だけでなく、レターパックや宅配便で送らせたり、電子マネーやコンビニエンスストアのマルチメディア端末を利用させたりするケースも増加している。

特殊詐欺の現状を確認した後、警視庁が公開している特殊詐欺に関する動画視聴を行った。実際のオレオレ詐欺電話の音声を聞くことができ、生徒たちは改めて手口の巧妙さを実感したようだった。

学習内容をふまえ、ゴールデンウィークの課題として詐欺防止啓発標語制作を実施。複数の標語を考えた生徒も多く、優秀作として2作品が選ばれた。

①それ信じちゃダメだよ！困ったら誰かに相談!!みんなで詐欺撃退!!

②詐欺に気を付けて!!自信があるあなたがターゲット!!

①は今年度の活動スローガンとして、ポスター等に採用、②はのぼり旗の標語として採用した。

【特殊詐欺防止標語（抜粋）】

- ・決めておこう、大事な人を守るための愛言葉
- ・どうしよう、ひとりで悩まず相談を!
- ・あわてるな!まずは家族に再確認
- ・「騙されない」そう言う人ほど騙される
- ・深めよう 家族のきずな 詐欺に負けない家族へと
- ・合言葉 家族で作って 詐欺防ごう!



■ 7月 特殊詐欺防止啓発動画制作（演劇部）

演劇部では、生徒たちが主体的な活動として啓発動画制作を実施。

脚本制作から撮影、動画編集まで一貫して行い、全国銀行協会の監修を受け修正作業を加えるなど意欲的に活動を進めた。

啓発動画概要

前半は演劇による「預貯金詐欺」の手口、後半は詐欺被害への注意喚起や対策など訴求。

・前半

①市役所職員を名乗る A 谷が山田さん宅に架電。保険料の払戻しがあり、キャッシュカード変更の必要性和、変更方法は別の担当者から連絡がある旨伝える。

②市役所の保険料払戻し担当を名乗る B 川が山田さん宅に架電。キャッシュカード変更の手続きに暗証番号が必要になると言われ、山田さんは暗証番号を教えてしまう。

・後半

前半の劇の様子は預貯金詐欺の手口であること、詐欺行為に課せられる刑罰について、若者が巻き込まれやすい「受け子」や「出し子」も犯罪であることを提示。さらに、詐欺被害に遭わないための対策、被害に遭った場合の相談先も分かりやすく提示。

【山梨高等学校公式 YouTube チャンネル 公開動画】

* 学校公式 YouTube チャンネルにて限定公開 <https://www.youtube.com/watch?v=i97W5yJYSCo>



■ 8月 ホームプロジェクトで特殊詐欺に関する調査実施
9月 調査内容発表・共有

夏期休業中課題として、家庭での特殊詐欺防止について実践するホームプロジェクトに取り組んだ。家庭で話し合い、合言葉を決めたり、留守番電話や迷惑電話防止を設定したりするなど多くの生徒が対策について考え実践し、レポートにまとめた。

2学期の授業ではレポートの発表、共有を行った。コロナ禍で離れて暮らす祖父母に会うことが出来ないため、特殊詐欺の種類や被害状況を電話で伝え、その場で合言葉を決めた様子を発表するなど、それぞれが出来ることや方法を考え取り組んだ様子がうかがえた。

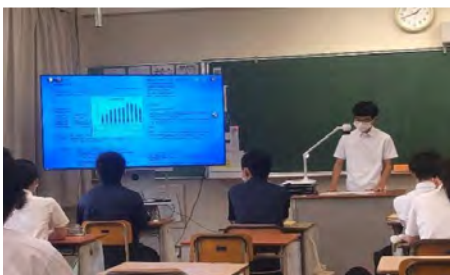
全校生徒が特殊詐欺防止について関心を持ち、各家庭での取組みが広がることを目的にレポートは校内に掲示した。

ホームプロジェクトワークシート

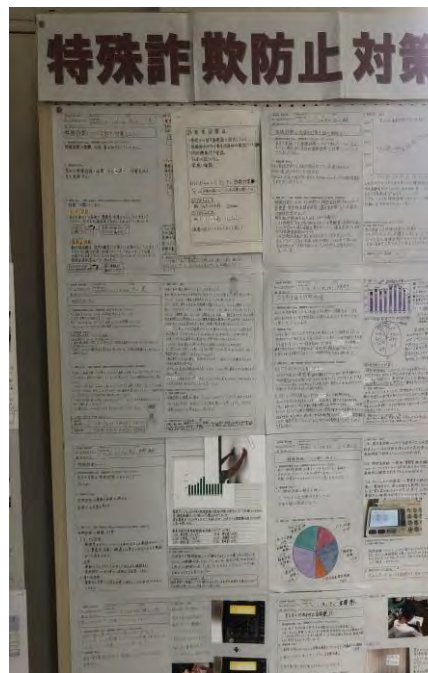
題目（テーマ）：（例）特殊詐欺について知り、対策しよう。

- ①題目設定の理由（See：問題発見・なぜこのテーマにしたのか）
- ②実施計画（Plan）
- ③実践（Do：実践・調査結果、写真などの資料等書ききれない場合は、別紙を添付）
- ④反省・評価（See）
- ⑤家庭からひとこと

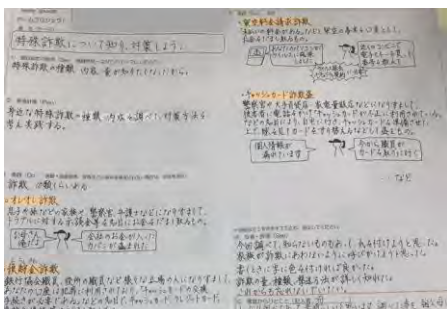
【レポート発表の様子】



【校内に掲示したレポート】



【レポート内容】



■ 9月 啓発グッズの制作と校内への掲示

美術部、家庭クラブ委員会を中心に、ポスター、のぼり旗、啓発グッズ（マスク用ミニチラシ、除菌ウエットティッシュ用ラベル）の制作を行った。

「家庭基礎」での学習内容をふまえ、標語に合わせてどのようなデザインにすれば特殊詐欺防止の意識を高めることができるか、一人でも多くの人の目に留まるようになるかなど検討を重ね、作業を進めた。

完成後は、校内にのぼり旗とポスターの設置を行った。

【ミニチラシ・ラベルデザイン】



【のぼり旗】



【校内掲示の様子】



■10月8日（金） 街の駅やまなし（山梨市地域交流センター）に 啓発グッズ設置

家庭クラブ委員会活動の一環として、山梨市駅前の「街の駅やまなし」（山梨市地域交流センター）にポスターと啓発グッズの設置を行った。

「街の駅やまなし」は、JR 山梨市駅から徒歩1分の場所にあり、市内外問わず訪れた人が憩い、交流できる場として、また各種情報の受発信基地としての役割も持つため、地域の方々の交流だけでなく、週末には多くの観光客で賑わっている。

正面入り口がある通りの掲示板にポスターを、正面入り口すぐの目につきやすい場所に除菌ウェットティッシュとマスクを設置することで、施設を利用する方々が特殊詐欺防止について意識していただけるようにした。

【活動の様子】



■10月16日（土）、17日（日） 特殊詐欺防止啓発キャンペーン

甲州市と山梨市のスーパーマーケット（いちやま마트塩山店、オギノ甲州店、オギノ山梨店）前で、日下部警察署員と少年補導員の方々との合同による「特殊詐欺防止啓発キャンペーン」を実施した。

活動に参加した生徒11名は、警察署員らと一緒にのぼり旗とポスターを持ち、来店者へ本取組みの説明や詐欺被害防止を訴え、啓発グッズの配布を行った。

地域の方と接する機会を通して、特殊詐欺被害防止の重要性を再認識できた活動となった。

【来店者へ啓発グッズの配布】



■10月21日（木）16：00～17：00 特殊詐欺防止講座の実施
（講師：日下部警察署 生活安全課 深松祐介 様）

山梨県内における特殊詐欺被害の実情や特殊詐欺に関する知識を深めるため、日下部警察署員による講義が実施された。当日は、1学期から調べ学習や、啓発活動で使用する啓発グッズ制作などに取り組んできた家庭クラブ委員と希望者の合計26名が参加した。

山梨県警察が公式 YouTube チャンネルで公開している電話詐欺防止撲滅動画を視聴し、オレオレ詐欺や還付金詐欺などの手口と、詐欺被害に遭わないためのポイントや防止策について確認した。

【電話詐欺見破りのポイント（オレオレ詐欺、預貯金詐欺）】

- ・ 電話で「お金」の話は詐欺！
- ・ 「誰にも言わないで」と言われても家族やご近所、警察にまず相談！
- ・ 普段から子供や孫と連絡を取り合う！
- ・ ATM で還付金は受け取れない！
- ・ 公的機関の名前を出されても信用しない

【電話詐欺には『電話機対策』が効果的】

- ・ 留守番電話にする
- ・ 非通知の電話は出ない・警戒する！
- ・ 防犯機能付き電話機等の活用

生徒たちは、特殊詐欺被害について地域の実情や具体的な手口、被害に遭わないための具体的な対策を知ることができ、これらのことを多くの人に知ってもらうために特殊詐欺防止啓発活動の必要性を再認識することができた講座となった。

【講座の様子】



■11月12日（木） 山梨県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会

第69回山梨県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会がオンラインで実施された。

山梨高等学校は、「困ったら誰かに相談！みんなで詐欺撃退！！～特殊詐欺防止の輪を広げよう」というタイトルで、4～11月までの特殊詐欺防止啓発活動内容について以下の内容を発表した。

1. 実態把握と問題点の把握
2. 学習活動（授業での取り組み）
3. 啓発ポスター、のぼり旗、啓発グッズ等の制作と校内掲示
4. 地域に向けた啓発活動
5. まとめと今後の課題

活動を通して、特殊詐欺について理解を深め、具体的な対策法について学ぶことができたことは生徒にとって大きな糧になったこと、今後は今年度の活動経験を生かし、状況に応じた持続可能な活動がどのようなものか検討しながら取り組みを進めていきたい旨、まとめとして発表された。

本発表は、第69回山梨県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会 最優秀賞を受賞した。

【研究集録原稿（抜粋）】

「困ったら誰かに相談！みんなで詐欺撃退！！」 ～特殊詐欺防止の輪を広げよう～

山梨高等学校 家庭クラブ

1. 実態把握と問題点の把握

山梨高等学校は県内の中で「駅から最も近い高校」であり、平成29年に創立100周年を迎えた伝統校です。中央線の山梨駅駅から徒歩5分程にある本校は、普通科各学年4～5クラス、全校生徒450名程です。生徒は自転車通学者が80%以上と多いのですが、駅から近いため2割の生徒が中央線を利用し、遠くから通学している生徒もいます。

校則は「空談禁止」（空談を心当たり）「常に誠実であること」を掲げています。以前は女子校であったため、男女共学になった現在でも男女は2：3と女子生徒が多く生徒会もここ数年女子で、リーダーシップをとっています。本校の目的には、個性豊、小学校、恵まれた環境、近づくケアセンター等、教育施設、介護施設があるため、実務やボランティア活動がしやすい環境が整っています。

2. 学習活動（授業での取り組み）

山梨高等学校は、令和3年度「特殊詐欺防止啓発活動」を一般社団法人全国銀行協会より依頼され、学校家庭クラブ活動を中心として活動を進めることになりました。特殊詐欺は近年手口が多岐化しており、次から次へと新たな手口での被害が発生しています。また、ここ1～2年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響でワクチンの予約数～といった文書を利用した特殊詐欺も確認されている状況です。

メディアやSNS、金融機関等での詐欺防止の啓発活動もあり特殊詐欺に対する認知は広まりつつあるものも分かります。特殊詐欺の発生件数は減少することなく、被害者も増加しています。山梨高等学校では、山梨市・甲府市を管轄する日本郵政事業と連携・協力し、家庭から地域へと特殊詐欺防止啓発活動を進めていくことにしました。

3. 啓発ポスター、のぼり旗、啓発グッズ等の制作と校内掲示

1. 実態把握と問題点の把握
2. 学習活動（授業での取り組み）
3. 啓発ポスター、のぼり旗、啓発グッズ等の制作と校内掲示
4. 地域に向けた啓発活動
5. まとめと今後の課題

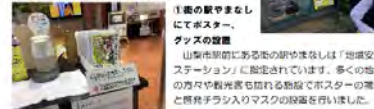


4. 地域に向けた啓発活動

活動部では、生徒たちが主体的な活動として啓発活動づくりを行いました。課外活動から撮影、動画編集まで一言して行っていました。さらに、家族銀行乗客の情報を提供し、修正を加えるなど積極的に制作に取り組みしてくれました。この動画は、山梨高校公式YouTubeチャンネルに限定公開されています。こちらのQRコードまたはURLから視聴可能です。
<https://youtube.com/97W5yJNSGo>

5. まとめと今後の課題

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、7月の学園祭で予定されていた啓発キャンペーンが中止となるなど、校外活動が制限されたことにより10月以降に初めて地域への活動ができるようになりました。



■11月14日（日）9:00～12:00 特殊詐欺防止啓発キャンペーン

「街の駅やまなし」で開催された「やまなしし朝の市」で、日下部警察署員と少年補導員の方々との合同による「特殊詐欺防止啓発キャンペーン」を実施した。

「やまなしし朝の市」は、2021年で12年目になる毎月第2日曜日開催の山梨市駅前のマーケットで、「赤ちゃんからお年寄りまでゆったり楽しめるマーケット」をコンセプトとしており、当日も多くの家族連れが訪れていた。

活動に参加した生徒7名はのぼり旗とポスターを持ち、来場者に本取組みの説明や詐欺被害防止を訴え、啓発グッズの配布を行った。啓発グッズを受け取った来場者は、特殊詐欺の発生状況や具体的な手口などの説明を生徒から聞くことで、特殊詐欺被害に遭わないためにどうすればよいか考える機会になったようだった。

山梨高等学校ダンスグループの発表もあり、参観しに訪れた保護者の方々にも本活動について知っていただくことができた。

【準備の様子】



【来場者へ啓発グッズの配布】



■各媒体における紹介

●山梨日日新聞 2021年10月20日(水)

山梨高生 詐欺防止に一役 全国で唯一委嘱 対策学びグッズで啓発

●山梨日日新聞電子版 2021年10月20日(水)

梨高生 詐欺防止を学んで啓発

■啓発グッズの配布実績

活動／配布先	日付	ポスター	マスク	除菌ウェットティッシュ
日下部警察署	—	10	—	—
街の駅やまなし	10月8日 (金)	5	150	100
特殊詐欺防止啓発活動 キャンペーン いちやま마트塩山店 オギノ甲州店	10月16日 (土)	—	250	—
特殊詐欺防止啓発活動 キャンペーン オギノ山梨店	10月17日 (日)	—	150	—
中学校教員対象 学校説明会	11月4日 (木)	—	50	50
特殊詐欺防止啓発活動 キャンペーン 街の駅やまなし 朝の市	11月14日 (日)	—	100	100
甲州勝沼いきいきサロン (日下部警察署経由にて配布)	12月17日 (金)	—	25	25
山梨市上神内川地区会議 (日下部警察署経由にて配布)	1月12日 (水)	—	25	25
合計		15	750	300

■ 1年間のまとめ

この1年間、特殊詐欺防止啓発活動を行ってきた家庭クラブ委員と担当の石原教諭に、1年間の活動について振り返ってもらった。

〈生徒の振り返り〉

①活動を通して感じたことや考えたこと

- ・ 詐欺被害に遭わないよう一人一人に意識してもらうためには、ポスターによる啓発など小さなことの積み重ねが重要だと感じた。
- ・ この活動を通して、改めて被害防止を促すことは大切だと感じた。
- ・ ポスターやのぼり旗などに、伝えたいことを簡潔に表すことは本当に難しいと感じた。
- ・ 啓発グッズをより多くの人に配布するのは大変だったが、快く受け取ってくれる人が多かった。自分には関係ないと思うのではなく、身近でも起きているということを知ってもらいたいと思った。
- ・ 地域の方々との交流の中で、地域の方々の温かさや親切さを改めて感じることができ、素敵な方々を守る活動ができて本当に良かったと思った。
- ・ 特殊詐欺防止講座では、ビデオ視聴などで様々な犯罪の手口を知ることができた反面、多くの手口があることに怒りを感じた。

②活動を通して自分自身で変わったと思うところ

- ・ たくさんの犯罪の手口を知り、改めて気をつけようと思うようになった。
- ・ 詐欺について意識する気持ちが強くなった。
- ・ 地域の人から実際に起こった詐欺被害について聞き、特殊詐欺が身近にあることを感じられるようになった。
- ・ 今まででは学生だから騙されることはないと思っていたが、父母や祖父母が騙された時、自分も助けられるように詐欺防止について学ぶことが大切だと改めて感じた。
- ・ 誰かが詐欺被害に遭わないように、私たち世代がより密接に人と関わりを持たなければいけないと思った。
- ・ キャンペーン活動を通して地域の人と触れ合い、自ら積極的に声がけや挨拶ができるようになった。

③今後どのような活動をしていきたいか、日常生活で気を付けていきたいか

- ・ 特殊詐欺防止啓発活動に参加し、地域の人々との関わりを広げていけば、詐欺被害を減らせると思うので、挨拶などから始め、交流の輪を広げていけるような活動をしたと思った。
- ・ 日常生活では知らない番号からの電話に出ないこと、なりすまし電話等の還付金詐欺では電話を切った後、自分の住んでいる地域の機関に確認するなど、自分にできることをしたいと思った。
- ・ 自分の身は自分で守れるよう意識をしながら生活し、少しでも怪しいものは家族に相談するなどしていきたいと思った。
- ・ 地域の人々との関わりを大切にしていきたいと思った。特殊詐欺防止啓発活動は今後も広げていくべきものなので、今まで以上に組み組んで若者にも気付いてもらうようにしたいと思った。

- ・ 今後も特殊詐欺防止に関わる活動があれば、積極的に参加していきたいと思った。
- ・ 地域の人たちとの関わりを増やし、助け合いながら詐欺防止のためにみんなで気を付けていきたいと思った。

〈担当教諭の振り返り〉

家庭科の授業で学んだ知識を家庭や地域社会にどう生かせるかを結び付けて考え、実践的に取り組むことが重要視されている。特殊詐欺防止啓発活動を学校家庭クラブ活動として進めることは、家庭科学習を広く発展的に生かすことができる取組みであったと感じた。

家庭科の授業の中では、

- ①特殊詐欺に関する正しい知識を身に付け、地域の被害実態について理解すること
- ②被害に遭わないためにどのような対策が必要かを考え、理解すること
- ③身近な家族が被害者にならないようにする対策法を検討すること
- ④詐欺被害を広げないために地域社会に対して自分たちに何ができるかを考えること

について授業を通して学び、考える機会とした。

この学習の後、1年生全員と家庭クラブ委員を対象に特殊詐欺防止啓発標語を考えさせたが、多くの生徒が熱心に工夫を凝らしてオリジナリティ溢れる標語を創り出してくれたことが見て取れ、自分の身近な家族を守ろうという意識や地域社会への発信に向けて、まずは自分事として考えるきっかけになっていることが感じられた。

授業における主軸となる取組みとして、毎年実施しているホームプロジェクトの研究テーマとして、「特殊詐欺防止」を取り上げたが、各家庭では思った以上に実践的な取組みが行われた様子であった。多くの生徒が夏期休業期間中に家族での話し合いや合言葉の決定、同居していない祖父母への具体的支援、生徒が実際に祖父母になりすまし風の電話をかけて試してみるものなど、高校生らしい発想で興味深い実践も数多くあった。家庭からいただいた感想においても、家族で話し合うことで詐欺防止への意識向上や知識の高まりがあったなど、生徒の取組みを評価していただき、まずは活動の各家庭への具体的広がりにつながったのではないかと感じている。

地域社会に向けての活動に関しては、生徒たちが想像をはるかに超える主体性を発揮し、活動に邁進する様子が見て取れた。

家庭クラブ委員を中心に演劇部や美術部の生徒が高い意識を持ち、特殊詐欺防止啓発活動に必要なグッズや動画作成に向けて取組みを進めていたことが、今回の活動の大きな原動力になったと感じている。最新の情報（騙しの種類や手法など）を調査し、生徒が主体的に学習し理解する中で、グッズのデザインに何をを入れるべきか考え、また、動画では何を上げる必要があるかというゼロからの脚本制作など、積極的かつ意欲的に制作に取り組んでくれた。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、部活動や校外活動に制限がなされる中、本活動も多くの制約を強いられ、当初予定していた学園祭での活動や夏期休業中のキャンペーンが実施できない状況になった。秋以降も活動の制限は続き、活動人数にも制限がある中で、募集人数以上に多くの生徒が活動への参加に手を挙げ、ボランティア活動への意欲を感じ取ることができた。実際の活動時には、地域の方々に温かい声をかけていただいたり、活動を褒めていただいたりする場面もあり、生徒たち自身にとって非常に励みになったようだ。初めは自分から地域の方々に声をかけることに躊躇していた生徒もいたが、次第に自ら声をかけることができるようになり、積極的に思いを伝えることができるようになっていく姿が印象に残っている。

このような活動が家庭クラブ研究発表大会において、最優秀賞という形で実を結び、生徒たちにとって大いに励みになった。多くの先生方から、家庭科での学びの活用、部活動との協働、身近な困りごとを解決するための地域と連携した取組みへの発展といった点や、「特殊詐欺防止」に向けた家庭クラブ活動が今までにない新しい視点だとして高く評価をしていただいたことは、本校の今後の家庭クラブ活動において、大きな力になったと感じている。

今年度の活動については手厚い支援をいただいたことにより、非常に有意義な委員会活動を展開することができた。生徒の活動が地域を発展させる推進力となっただけでなく、彼らの底力を身をもって感じる機会にもなった。生徒の大きな自信や成長につながる機会を作っていただいたことに感謝したい。本来であれば計画性を高めることで、このサポートをより有意義に活用しながら、さらに多種多様なグッズの作成や活動の活性化への具体策を検討することができたのではないかと教員としての力不足を感じるころもあったが、家庭クラブ活動のさらなる躍進に向けて今回の活動を糧に、来年度以降も日下部警察署との連携を継続させていただきながら、持続可能な学校家庭クラブ活動を目指し、取り組んでいきたい。